

KEIO SFC  REVIEW

48

3.11



## contents

- 02 「3.11」
- 04 そのときあなたは ①
- 08 震災にあたって 國領 二郎 総合政策学部長
- 10 そのときあなたは ②
- 14 情報通信インフラの新しい出発 村井 純 環境情報学部長
- 16 そのときあなたは ③
- 20 3.11後の社会とSFC 徳田 英幸 政策・メディア研究科委員長
- 22 そのときあなたは ④
- 26 3.11以後の課題：三度目の奇跡のために 高木 安雄 健康マネジメント研究科委員長
- 28 そのときあなたは ⑤
- 32 震災に思う…情報の連携と組織間の協調を 金子 郁容 SFC研究所所長
- 34 そのときあなたは ⑥
- 40 From Editor

### 表紙の写真について

表紙の写真は地震があった次の日、3月12日の日の出です。私は地震の時、神楽坂付近の地下鉄内にいました。その後、神楽坂から新宿まで歩き、新宿のホテルのロビーで夜明けを待ちました。その時に撮った写真です。続く余震。繋がらず電池がなくなっていくケータイ。空っぽのコンビニ。そんな不安な状況ながらも、周りの避難している人達がこの日の出を見て、安堵の表情を浮かべていたのが印象的でした。

48号 副編集長 環境情報学部2年 中谷 紗恵





A vibrant field of sunflowers with large green leaves and bright yellow heads. A semi-transparent white text box is centered over the image, containing Japanese text. The background shows a dense line of trees under a bright sky.

# 「3.11」

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。  
一日も早い、被災地域の復興をお祈りいたします。

今号のテーマは、「3.11」です。

東日本大震災から4ヶ月が過ぎました。  
これからのSFCは、どういう姿勢を社会に対して見せるべきなのでしょうか。

そのとき、何を思ったのか。  
そしていま、何を考えているのか。

いま一度、自らに問いかけてみませんか。

# 出身地

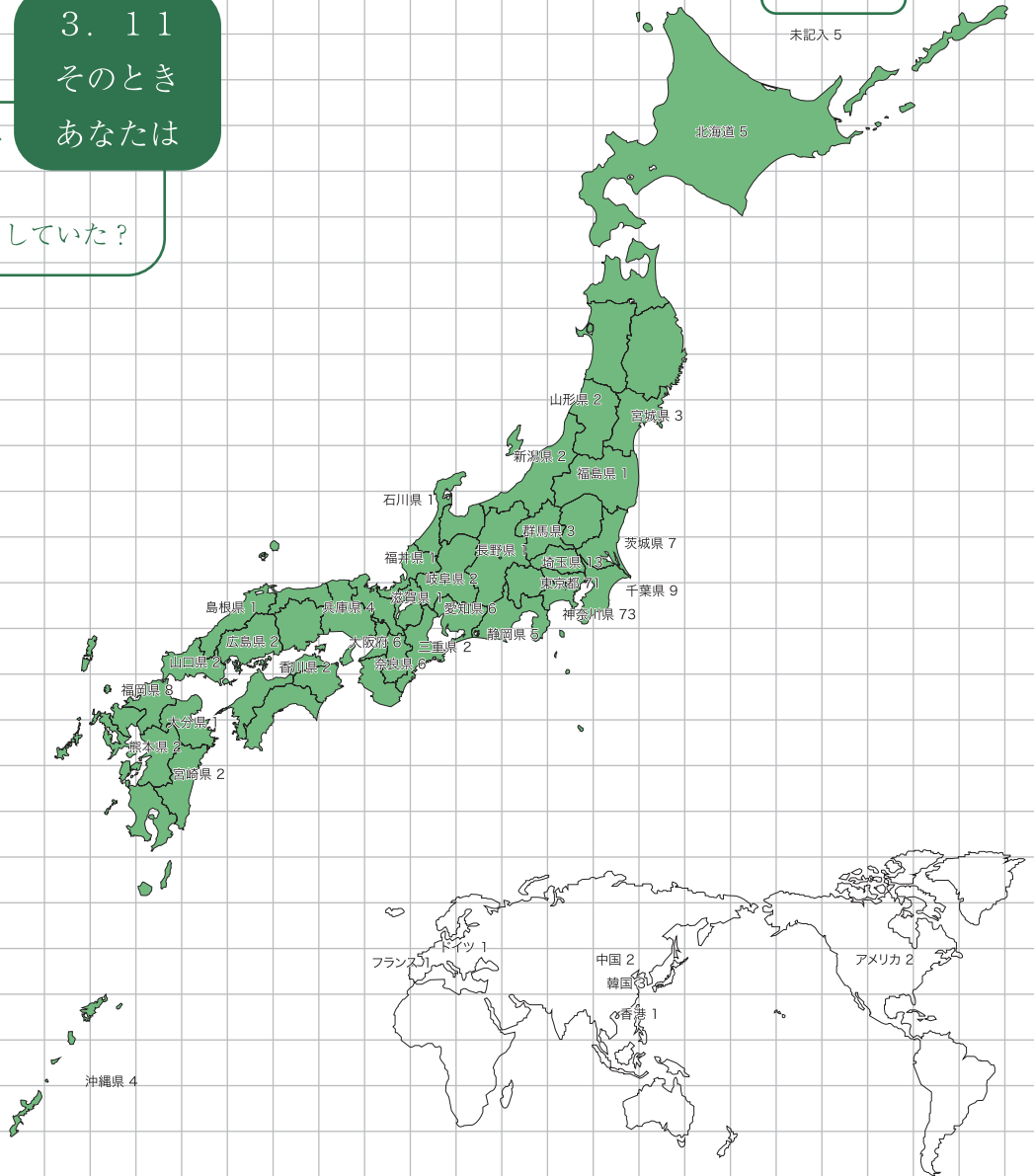
未記入 5

3. 11  
そのとき  
あなたは

Q1.どこで

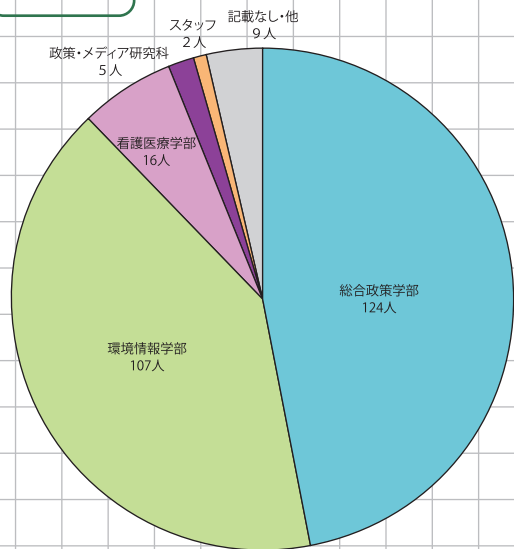
Q2.だれと

Q3.なにをしていた？



# アンケートにご協力いただいた263名

## 所属



突然の出来事。

被災した人も、していない人もいます。

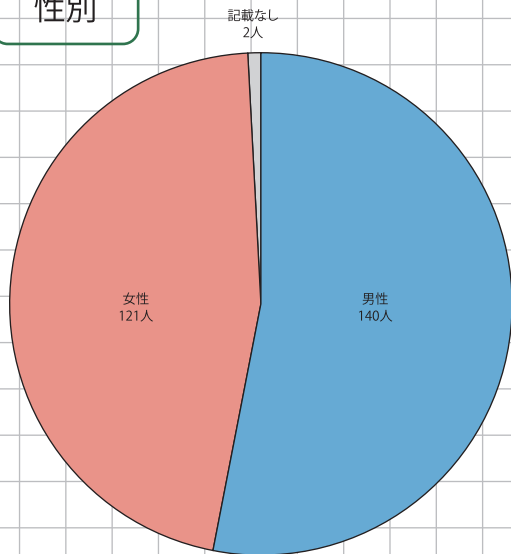
そのときあなたはどこにいて、なにをしていましたか？

震災の記憶を風化させてしまわないように、  
純粋な事実のみの、体験の記録を残せたら。

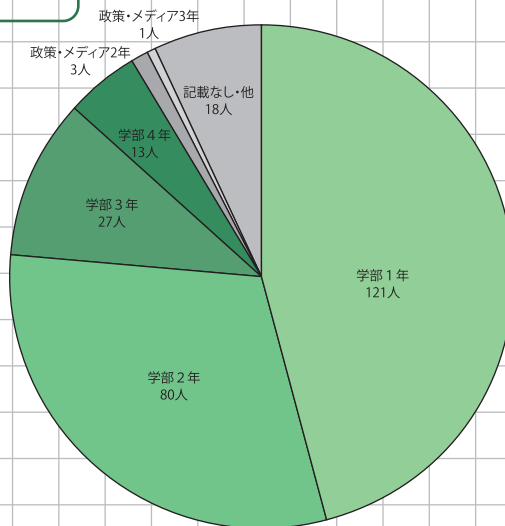
私たちは6月に、SFCの教員、在学生、  
そして入学が遅れた新入生へのアンケートを行いました。  
集まった約260名が、  
実際にさまざまな場所で体験したそれぞれの記録。

皆様は、どこでなにをしていましたか？

## 性別



## 学年



3. 1 1  
そのとき  
あなたは

- Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

総合（総合政策学部）  
環境（環境情報学部）  
看護（看護医療学部）  
政・メ（政策・メディア研究科）  
経済（経済学部）

目黒の実家で  
ひとりで  
TOEICの勉強をしていた。  
総合3年 男性

プリー（インドの町）で  
友人と  
外を歩いていた。  
環境2年 男性

福岡で  
ひとりで  
買い物をしていた。  
環境1年 女性

家で  
家族みんなと  
太鼓の達人をしていた。  
環境2年 女性

横浜アリーナに併設されているライブハウスで  
サークルの友人と  
ライブをしていた。  
総合2年 女性

中国で  
サークルの人と  
渉外。  
総合2年 女性

電車で  
友人と  
SFCに登校中。  
総合3年 男性

渋谷のスタバで  
ひとりで  
コーヒーを買っていた。  
環境2年 男性

沖縄県石垣島で  
野球部キャンプメンバーで  
練習していた。  
環境2年 男性

家で  
ひとりで  
料理をしていました。  
環境2年 女性

家のリビングで  
弟と  
テレビを見ていた。  
総合1年 女性



友人の家で  
友人と  
麻雀をしていた。  
環境1年 男性

家で  
家族と  
びっくりしていました…!!  
看護2年 女性

横浜の繁華街から家に帰った直後  
弟と  
パソコンで動画をみていた。  
環境1年 男性

北池袋の劇場で  
サークルのみんなと  
演劇の講演のリハーサルをしていました。  
看護2年 女性

平塚の映画館で  
地元友達(4人)と  
英国王のスピーチを見ていました。  
環境1年 男性

自宅で  
ひとり+犬2匹で  
ツイッターをみました。  
環境4年 女性

家で  
ひとりで  
寝ていた。  
総合3年 男性

実家で  
ひとりで  
昼食を作った。  
総合1年 男性

東京の親戚の家で  
ひとりで  
本を読んでいた。  
総合1年 男性

家で  
ひとりで  
出かけようと思って、準備をしていました。  
看護2年 女性

SFC-IVのKIEP事務局オフィスで  
SFC院生のマレーシアの方と同じ空間で  
3/14開催予定の国際会議の準備。  
SFCスタッフ 女性

# 震災にあたって

総合政策学部長

國領 二郎

被災地のニーズは時間の経過とともに変化すると良く言われるが、学部をお預かりしている人間の関心事も時間とともに変化しているように思った。現在進行形だが、忘れないうちに文章にしておきたい。

揺れた時には、赤坂にいた。長い周期の大きな揺れに、まずは東海地震を疑い、「もしそうなら」とキャンパスのことを思った。自分の避難が落ち着いたところで、携帯電話を試みたが予想通りだめだった。この時には放送で震源が東北であることを知り、巨大な揺れがあったことを知った。三田に行けば状況がわかるに違いな一と思いいずれにせよ行く予定だった三田に移動した。その時はまだ道も空いていて、タクシーですぐ着いた。

三田に到着すると、知り合いの職員の人がSFCと内線電話で話しているところに遭遇した。脇から切らないように頼んで初めてキャンパスと通話ができた。幸い怪我人もなく、イベント参加のために大勢SFCを訪問していた塾外高校生たちも無事避難したと聞いて、ほっと胸をなでおろした。キャンパスネットでインターネットにアクセスしているうちに誰かがアップしてくれた、SFCメディアセンターの書架から本が崩れ落ちて通路が完全に埋まっている写真が登場した。激しさに目を疑い、

怪我人がいなくなったことに改めて感謝した。三田では塾長が陣頭指揮をとっていた。慶應義塾関係で人的被害の報告が来ていないことを知り、安堵した。ちょうど帰宅困難者のために三田キャンパスを開放する話が出ていたところだった。18時頃、とりあえずSFCに切迫した危険がないことが確認できて、三田では役にたっていない自分が、場所や食糧をとってはいけな一と思つて、歩いて帰宅することにした。助け合いながら整然と歩く人、大渋滞の中、クラクションも鳴らさず譲り合いながら走行する車にこの国はすごいなと思つた。

翌土曜日にキャンバスで夜明かした職員から電話があり、キャンバスで夜を明かした高校生や職員などが無事帰宅したことを確認できた。そこで週末は動かずに自宅にいることにした。

月曜日には、キャンバスに行き、普段は行かないようなところまで、各職場を回った。数百名の外部の方々などをお預かりして、震災の夜を過ごした職員をねぎらいたいと思つたし、春休みで帰郷したり、旅行で東北を訪問したりしているであろう学生たちの安否情報を少しでも入手したいと思つた。車で行ったのだが、この日にはすでに給油所に長蛇の列ができていた。そのうちに解消するだろうと思つて自分は見送つたのだが、その読みの甘さを後に後悔した。

やがて始まった計画停電(第一グループ)には参った。実際に頻繁に止まったし、止まらなかつたときにも止まることを前提にサーバーなどを止めないといけなかつた。通常なら卒業と新入生の迎え入れで超繁忙期を迎える事務の生産性の低下は明らかだつた。停電のない本部にはそれが頭でわかつても感覚でわからない状況のようで、意思疎通のすれ違いが多いようだつた。そこで、担当常任理事に現場を見ていただくようお願いをし、早速来て下さつた。計画停電中に小田急が止まつてしまつのも痛手で、燃料不足で神奈川中央交通のバスも大幅減便になり、ガソリンも入手がきわめて困難といふなかで、通勤もままならない状態になつた。

原子力発電所のニュースが広がると、留学生などの間で動揺が広がっているのが身近でも感じられるようになった。地震のない国から来た留学生には地震そのものが恐怖であつたろう。本国の家族からの声も大きいようで多くが帰国していった。海外メディアのセンセーショナルな報道が逆流してパニックになっている様子もわかつた。3月20日ころまでの二週間ほど、自分のツイッターやフェイスブックでの発言をほとんど英語のみにスイッチして、日本在住の外国人学生が欲しいのではないかと思える情報をせつせと流すようにした。まತ್ತたく

関係ない大学の留学生に感謝されたりした。

そんな中で、卒業式と新学期開始が迫つていた。3月20日に緊急のキャンパス合同運営委員会を開催して、授業開始の延期を決定した。連動している要素が数多くあるなかで、学事日程を変更するというのは複雑な連立方程式なのだが、委員と事務の献身的な検討と調整でどうすればいいかが見えた。

延期を決定した瞬間からこれをマイナスではなく、プラスに生かすことを考えないといけなないとマインドが大きくスイッチした。ポランティアに出かける学生から、家にこもつて読書に集中するものまでいろいろ想定されたが、それぞれの学びをどうやったら支援できるか、できることをしようと思つた。計画停電や交通混乱でキャンパス機能が低下しているなかで、危険を伴う活動についてどんな立場をとるべきか、正直迷いがあつたのだが、「こんなときだからできる社会貢献」を行っている学生には安全対策を呼びかけながらも、前向きに支持することとした。体験を学問的な分析を加えて記録に残せば、それをフィールドワーク成果として認定することにした。

全塾レベルで卒業式ができないと決まつたときも、どうやったらそれを逆手にとつ

て、みんなの記憶に残るような卒業にできるかを考えた。同じことを環境情報学部長も考えていたらしく、ストーリーミングとツイートを連動させた「学位記授与式」を急遽準備して下さつた。この趣向に大勢の卒業生に加えてOBなどがのつてくれて楽しい時間になつたことは嬉しかつた。

4月に入つて細かな調整が一段落してからは、中長期的に大学としてなすべきことは何か、そのために教育や研究はどのように組みなおしていくべきか、などを考えるようになった。この震災は少なくとも日本にとつて、そして恐らくは世界にとつて一つの大きな契機になるのだからと思われ、新しい出発に向けて必要な学問をし、能力を高めていかなければならない。世界の流れの本質を見極めて、未来への投資をしつかりしていかなければならない、と思いを巡らせているところである。



國領 二郎 (こくりょう・じろう)  
総合政策学部長・教授。  
政策・メディア研究科委員。  
専門は、経営情報システム。

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

実家で  
ひとりで  
TVをみてた。  
総合1年 男性

家で  
犬と  
テレビ(ミヤネ屋)を見ていた。  
環境1年 女性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

家で  
ひとりで  
PCを見てた。  
総合1年 女性

駅の近く(茗荷谷)の王将で  
友だち5人と  
ギョーザを食べていた。  
総合1年 男性

自分の家で  
ひとりで  
ご飯を作っていました。大きな揺れを  
感じたとたんガスを消して、  
「テレビが落ちる!!」と思って  
テレビを押さえていました。  
看護2年 女性

新宿駅で  
ひとりで  
電車を待っていた。  
環境1年 女性

北九州市の図書館で  
ひとりで  
本を読んでいた。  
総合1年 男性

自室で  
ひとりで  
本棚の片付けをしていた。  
総合1年 男性

自宅のトイレに  
ひとりで  
いました。  
環境1年 女性

教習所で  
教官と  
教習を始めようと車にのったところ。  
総合1年 男性

横浜で  
大好きな友だちと  
買い物をしていました。  
総合1年 女性

沖縄で  
ひとりで  
マックで勉強。  
総合1年 女性

小田急線梅ヶ丘で  
サークルの友人と  
サークルに行く途中。  
環境3年 男性

自宅で  
ひとりで  
韓流ドラマを見ていました。  
総合1年 女性

清泉女学院高校(母校)で  
音楽部の仲間と  
8月の演奏会に向けて練習をしていました。  
環境1年 女性

家の自分の部屋で  
ひとりで  
寝てた。  
環境1年 男性

家で  
ひとりで  
DVDを見てた。  
環境1年 男性

日吉のレストランで  
部活のマネージャーの先輩(2人)と  
お昼ごはんを食べていました。  
総合2年 女性

マンションの7階の自宅で  
母とネコ2匹と  
ラジオを聴いていました。  
環境1年 女性

地元の予備校で  
ひとりで  
授業を受けていました。(東進)  
記載なし

家で  
母と  
ぐだぐだしていました。  
総合1年 女性

高校のテニスコートで  
部活のみんなと  
部活をしていました。  
総合1年 女性

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

自宅で  
ひとりで  
読書していました。  
総合2年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

中国の北京大学の宿舎で  
友人(SFC)と  
大同ツアーの準備をしていました。  
総合2年 女性

会社で  
上司と  
本棚を押さえていました。  
総合 男性

家で  
ひとりで  
ねていた。  
総合2年 男性

会社のオフィス(都内)で  
同じチームの人達と  
働いていました。  
政・メ 2008年卒 男性

会社(日暮里)で  
部署の人と  
パターンをひいてました。  
環境 2005年卒 男性

家で  
ひとりで  
インターネットをしていました。  
総合1年 女性

沖縄(美ら海水族館)で  
家族と  
観光。  
総合4年 女性

山梨の宿で  
サークルの仲間で  
夜ご飯の準備をしていた。  
看護4年 女性

図書館で  
ひとりで  
本を探していた。  
男性

藤沢で  
ひとりで  
車の運転をしていました。  
SFCスタッフ 男性

家で  
ひとりで  
寝ていました。  
総合1年 女性

横浜駅の停車している電車の中で  
友だちと  
帰るところでした。  
環境1年 女性

家で  
ひとりで  
テレビを見ていた。  
看護2年 女性

仕事場(SFC-IV)で  
仕事仲間と  
仕事中、パソコンで資料作り中。  
SFCスタッフ 女性

高知の畑で  
おばあちゃんと  
ニラ農場で散歩。  
総合1年 女性

銀座のカフェで  
姉と  
ケーキを食べてました。  
総合3年 女性

家で  
ひとりで  
椅子に座っていた。  
環境1年 男性

家で  
ひとりで  
寝てた。  
総合2年 男性

家で  
母親と  
バイトの研修に向かう準備をしていました。  
総合2年 女性

新宿で  
友達と  
カフェにいました。  
看護2年 女性

# 情報通信インフラの新しい出発

環境情報学部長

村井 純

3・11の震災発生直後から、インターネットは個人的なコミュニケーションツールとして、また新しい情報共有のメディアツールとして活躍しました。人々の間ではメールやTwitter等のSNSで安否情報が交換されました。このような新しいメディアの使い方には震災や緊急時としては初めてのことです。もちろん、普段からメールやSNSを利用してしたこと、また、家族や友人がそれを使っていること、これを日常的に経験していたからこそ、緊急時に利用できたわけです。この個人ベースのコミュニケーションは、マスコミの初動の貴重な情報ソースとして世界中で利用されました。マスコミなどの既存メディアは、情報をいち早く主に取材により入手し、その正確さを吟味しつつ、正しく迅速に読者や視聴者に伝えることが使命です。この取材の部分で個人の発信するSNSを利用したわけですから、メディアとしての新しい構造を経験したことになります。

初動時期を経ると、マスメディアの情報のは正確さは増してくるのが普通です。今回の経験は、その情報の伝達

の仕方でも新しい方法を経験したことになります。例えば、日本経済新聞は印刷所の被災と配送経路の断絶のために、PDFによる電子配送を行い、各地の支所や配達所には、「必要な人にプリントや拡大コピーを利用して届けるように」という指示をしたそうです。テレビやラジオは、Ustreamやニコニコ動画、そしてYouTubeなどを通じて、放送内容のインターネット配信を行いました。少年ジャンプは心の安らぎを求める被災地の子どもたちに電子出版として無料でまんがを配信しました。その被災地での必死の活動や医療活動もインターネットがあれば、より効率的に行えました。社会基盤としてのインターネットがその実態通り、緊急時・災害時に活動の一般的なインフラとなりました。

私たちインターネットのコミュニティは、震災後に2つのプロジェクトを立ち上げました。一つは災害情報アクセス集中緩和プロジェクト、もう一つは震災復興インターネットプロジェクトです。震災直後から、政府系のWebサイトや東京電力のWebサイトはアクセスが集中し、なかなか



つながらない状況が発生しました。そこで、一次情報を複数のサイトに分散して掲載し、テレビやラジオなどでの広報も新たに立ち上げたサイトをアナウンスすることしました。これによって多くの人が一次情報にアクセスできるようになりました。

また、震災復興インターネットプロジェクトでは、情報通信系の企業、研究所、大学が協力して、インターネットを被災地に届ける活動をしました。慶應義塾大学ではSFCの教員や学生も多く参加して「コ・モビリティ社会の創成」「グリーン社会」「ICTライフィンフラ」といったプロジェクトを、宮城県栗原市とともに進めています。栗原市は2008年に岩手・宮城内陸地震を経験しています。その時、震災時の情報通信の重要性を強く認識して、私たちのチームとともに災害時情報通信早期復旧システムの開発を進めていました。今回もこの研究成果をもとに栗原市の支援を得ながら活動をしました。被災地では、インターネットを含むあらゆる社会インフラが被災していました。そのような場所にインターネットを提供することにより、医療や行政、避難所運営を支援するだ

けではなく、避難されている被災者の方々にも情報収集の機会を持ってもらうことができました。現在では、職を失われた方々の就職活動や仮設住宅の情報収集等、様々な目的のために活用されています。

SFCでは私たちの他にも、多くのプロジェクトが立ち上がり、震災復興に向けて活動を始めています。日常的な社会や人に対する関心が強くなければ、また、普段からその関心に結びついた活動をしていなければ、このようなアクティブな活動は生まれなかつたでしょう。インターネットが社会インフラとなり、それを利用した生活や活動の経験を蓄積したからこそ、このような時に役に立ちました。同じように、普段からの関心と社会との大きな接点を持ったキャンパスライフだからこそ、この経験を新しい未来を創ることに活かしていくことができるのです。

20周年を経て、次の10年に出発したSFCで、皆さんと一緒に新しい日本の出発に取り組みしましょう。



村井 純 (むらい・じゅん)

環境情報学部長・教授。

政策・メディア研究科委員。

専門は、コンピュータコミュニケーション、オペレーティングシステム。

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

車の中で  
ひとりで  
運転をしていました。  
SFCスタッフ 男性

家で  
ひとりで  
煙草を吸っていた。  
総合3年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

池袋の地下3階のレストランで  
友達と  
お昼ごはんを食べていました。  
総合1年 女性

地元の名古屋の実家の自分の部屋で  
ひとりで  
本を読んでいた。  
環境1年 男性

自宅で  
ひとりで  
昼寝をしていた。  
環境1年 男性

函館の道路で  
家族と  
ドライブ。  
総合1年 男性

表参道の会社(ビルの6F)で  
会社の方々と  
打ち合わせをしていました。  
環境 女性

SFCのサブウェイで  
プロジェクトの仲間と  
ランチをしていました。  
総合1年 男性

新宿の本屋で  
ひとりで  
買い物をしていた。  
環境1年 男性

SFCで  
友人と  
楽器の練習。  
総合3年 女性

自宅で  
ひとりで  
勉強。  
環境2年 男性

都内の仕事場(マンション4階)で  
仕事仲間と  
PCで仕事をしていました。  
環境 2007年卒 男性

湘南台の部屋で  
ひとりで  
昼寝していました。  
看護2年 女性

出身の高校で  
同期と後輩たちと  
お笑いネタの披露をしていました。  
環境2年 男性

原宿(東京)の竹下通りで  
友人と2人で  
ぶらぶらしてました。  
環境1年 男性

SFC前のFamily Martで  
弟と  
買い物をして1万円を払おうと店員さんに渡していた。  
環境1年 男性

自宅で  
ひとりで  
ゲームをしていた。  
環境2年 男性

自宅(福島県郡山市、マンション)で  
ひとりで  
クッキーをつくっていた。  
環境2年 女性

恵比寿のラーメン屋で  
ひとりで  
ラーメンを食べてた。  
総合3年 男性

ドイツ(ベルリン)で  
ひとりで  
寝ていました。  
環境3年 女性

横浜の予備校で  
先輩と  
バイトをしていました。  
環境2年 男性

家で  
ひとりで  
インターネット。  
総合3年 男性

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

駅で  
ひとりで  
歩いて帰宅途中。  
総合2年 女性

マルイで  
ひとりで  
買い物をした。  
総合3年 男性

自宅で  
ひとりで  
子どもを待っていた。  
SFCスタッフ 女性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

ドイツの学生寮で  
ひとりで  
ネットを見てた。  
総合3年 男性

実家で  
誰かと  
遊んでいました。  
総合1年 男性

ドイツの学生寮で  
ひとりで  
寝てた。  
総合3年 男性

自宅で  
父と  
パソコンを使っていた。  
総合2年 女性

サンアントニオ(アメリカ)で  
SFCの友達と  
アメリカを横断中でした。  
総合3年 男性

長野駅で  
高校の友達と  
帰宅しようとしていた。  
総合1年 男性

所沢の東進で  
スタッフの人と予備校の人と  
報告会の準備。  
総合1年 男性

日吉で  
部員たちと  
弓を引いていた。  
環境2年 女性

横浜スタジアムで  
野球を見にきていた人+選手などと  
アルバイト(ビールの売り子)。  
環境2年 女性

自宅で  
ひとりで  
国会中継を見ていた。  
環境4年 男性

御茶ノ水の駿台予備校で  
他の予備校生と  
大学準備講座をうけていた。  
環境1年 男性

横浜のライブハウスで  
サークルの仲間と  
歌っているのを見ていました。  
総合1年 男性

代々木オリンピックセンターで  
200名の学生と  
合宿をしていました。  
総合3年

自宅で  
ひとりで  
帰宅して靴を脱いでいた。  
総合2年 女性

家の近くの美容院で  
ひとりで  
髪を切っていた。  
環境2年 男性

横浜の自宅で  
姉と近所の女の子と  
マリオカートしていた。  
総合1年 女性

相模大野で  
ひとりで  
買い物から帰宅途中。  
環境2年 男性

コンゴで  
コンゴ人と  
寝てた。  
政・メ2年 男性

友達の家で  
友達と  
食事をしていた。  
環境1年 男性

# 3.11後の社会とSFC

政策・メディア研究科委員長

徳田 英幸

日本社会が未曾有の大震災・津波、原発事故の危機に直面したことを振り返ってみると、いろいろなことが震災前と震災後で大きく変わり始めている。ここでは、震災直後の行動や情報通信インフラの課題を整理しつつ、これからの震災後の社会とSFCの関係について考えてみる。

3・11の当日、私は、国立情報学研究所(NII)で開催されていた科研の情報爆発―IT基盤成果報告会でのパネル討論にパネリストとして参加するために会場に行き、2Fで開催されていたデモセッションを見ているときに被災した。あまりの揺れの強さに、デモをされていた方々は、慌てて大型ディスプレイやPC用のディスプレイを倒れないように押さえていた。すばやい主催者側の判断で、デモ、テクニカルセッション、パネル討論のすべてが中止となり、多くの参加者が帰路について。東京近郊からの参加者は、JR、私鉄、地下鉄の各線が運行を取りやめていたため、帰宅することができず、NIIの会場で電車の運行再開を待っていた。結局、運行再開もなく多くの方々が、

NIIの12Fに用意された避難場所に移動し、Ustream上を流れていたNHKの地震・原発関連情報やツイッター上のツイートをしながら皆と共に一夜を明かした。

私たちが帰宅しないことをいち早く決めることができたのは、NIIが避難場所を提供してくれたことと、家族全員が無事であることの確認が取れていたことによる。一方、多くの人たちが、自宅をめざして20km以上の道程を黙々と歩いて帰宅したと聞いている。地震の後、NIIの前の白山通りなども、歩道は人で溢れ、車道は車で溢れかえっていた。実際、数十kmも歩いて帰宅された方々の話を聞くと、余震が続くなか、いつでもどこで2次的な災害が起きても不思議ではなく、かなり危険をおかしたの決断だったのかもしれない。家族との連絡や必要な情報をとることができず、どうしても自宅に戻らなければならなかった人も多いと聞く。また、金曜日の夕方であり、そのうちに交通機関が復旧すれば何とか自宅に帰れるであろうと判断した人も多かったからだと聞く。実際、震災直後は、私鉄のバスなどは運行し

ており、それを利用した人もかなりいた。また、数十kmを歩いていたらたちのなかには、帰宅が翌日の明け方ごろになり、最後の数kmは、私鉄などに乗った人もいる。

このような大地震の直後、交通機関が麻痺しただけでなく固定電話や携帯電話には、発信規制がかかられてしまい、多くの人々は家族らと直接連絡が取れなくなっていた。地震後には、NTTドコモによると通常の約50倍のトラフィックとなり、都心部でも90%の発信規制をかけざるを得なかったと報じられている。一方、インターネットの方は、パケット交換網という特性により、通常どおりに電子メールを使って連絡をとることができたとともに、ツイッターへのツイート経由でリアルタイムに、時々刻々と変化していた公共交通機関の渋滞情報や鉄道関連の運行状況を確認することができた。また、ワンセグ付きケータイを利用して、NHKのニュースを見ていた人や、Wi-Fi経由でスマートフォンを利用してUstreamを見ていた多くの人は、連続でのバッテリー駆動時間の短さにあらためて気づいたようだ。

このように我々が日常利用している情報通信に関するインフラに対する課題も明らかになっている。インフラ系では、従来の固定や移動体通信網の東北地方の基地局が数多く破壊されてしまったとともに、発信規制によりほとんど通話機能は利用できず、地震に対する脆弱性が露呈した。これまでの発信規制ではなく、通話品質を下げてももつとスマートフォン<sup>スマートフォン</sup>な輻輳制御をすべきである。また、ケータイでは緊急地震速報などの誤検出に関する問題やバッテリー問題、さらには、基地局に依存しないアドホックな通信機能などへの課題も見えてきた。メディアの利用に関しては、ツイッターなどのリアルタイム性の高い新しいソーシャルメディアからの情報の有効性が確認できた一方で、従来の公共放送からの一斉同報方式による情報伝達におけるスピードの劣化や信憑性に関する課題がある。

震災後の日本社会をより安全で安心な社会にするためには、新しい社会基盤が必要であり、ここで触れた情報インフラ、デジタル機器、メディアに関するテクノロジーイノベーションだけ

でなく、社会システムのイノベーションをも実践できる人たちがSFCから育っていくことを期待している。



徳田 英幸（とくだ・ひでゆき）

大学院政策・メディア研究科委員長。環境情報学部教授。  
専門は計算機科学、分散システム、オペレーティングシステム、  
ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング。

3. 11  
そのとき  
あなたは

- Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

新宿の服屋で  
ひとりで  
試着をしていた。  
環境4年 女性

池袋のビルの地下2階で  
他の就活中の学生と  
面接の順番待ち。  
総合4年 男性

自宅で  
祖母と  
読書をしていた。  
政・メ3年 女性

家付近で  
教官と  
路上教習をしていた。  
総合2年 女性

京急空港線 羽田空港国際線の  
ターミナル～天空橋 車内で  
ひとりで  
実家から東京に戻る途中。  
総合2年 男性

渋谷のバイト先で  
バイト仲間と社員さんたちと  
仕事をしていた。  
総合4年 女性

自宅付近で  
友人と  
歩いていた。  
総合3年 女性

SFCの研究室で  
ひとりで  
研究。  
政・メ 男性

家で  
ひとりで  
机に向かっていた。  
環境4年 女性

家で  
ひとりで  
出かける準備。  
環境3年 女性

SFCのバス停付近で  
同級生と  
歩いていた。  
環境1年 男性



湘南台のえいごやで  
同僚と  
事務作業。

総合2年 男性

武蔵境駅で  
ひとりで  
帰宅途中。

環境1年 女性

家で  
母と弟と  
寝ていました。

環境2年 女性

浦和パルコの地下駐車場で  
母と  
電車に乗りにいこうとしていた。  
母は買い物にいこうとしていた。

総合4年 男性

自宅で  
友達と  
ゲームをしていた。

総合2年 男性

ラゾーナ川崎の1階で  
サークルの友人2人と  
サークルのゲネをやっている劇場に  
戻ろうと今まさにエレベーターに  
乗ろうとしていた。

環境2年 女性

実家で  
母と  
まったりしてた。

総合1年 女性

世田谷の自宅で  
ひとりで  
本棚のネジがゆるんでいたため、  
不安定さを確かめるために  
本棚を揺らしていた。

環境2年 男性

京急百貨店で  
ひとりで  
バイト面接の帰り。

総合1年 女性

家で  
母と兄と  
昼食を食べていた。

総合3年 女性

自宅のこたつで  
ひとりで  
寝てました。

環境1年 男性

3. 11  
そのとき  
あなたは

- Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

自宅(大阪)で  
ひとりで  
友人にケータイメールをうっていた。  
女性

バイト先で  
バイト仲間と  
話をしていた。  
総合2年 女性

(ひとり暮らしの)家で  
友達と  
DVDを見ていた。  
総合2年 女性

湘南台で  
友達と  
友達の家に行った。  
総合1年 男性

長野県で  
サークルの人たちと  
スキー場から別のスキー場へ車で移動中。  
環境2年 男性

ドイツで  
ひとりで  
ねてた。  
総合3年 女性

中国で  
友達と  
ぼーっとした。  
環境2年 男性

電車の中で  
ひとりで  
藤沢にむかってました。  
総合2年 女性

自動車学校で  
教習生と  
授業。  
総合2年 女性

家(下宿)で  
ひとりで  
本を読みました。  
総合2年 男性

家で(湘南台)  
ひとりで  
バイトに行く準備をした。  
総合2年 女性

SFCのバス停付近で  
同級生と  
歩いていた。  
総合1年 女性

菊名の教習所で  
ひとりで  
仮免効果測定を解いていた。  
環境1年 男性

自宅で  
いとこと  
ミヤネ屋を見ていました。  
総合1年 男性

北海道札幌市の実家で  
両親と  
昼食を終え、ぼーっとテレビをみていました。  
総合2年 女性

親戚の築40年の酒屋で  
母と親戚  
トラックの振動と間違えた。  
環境1年 男性

茨城県つくば市の実家で  
ひとりで  
TVでスポーツを観戦中。  
総合1年 男性

熊本で  
ひとりで  
ねてた。  
総合1年 男性

池袋の路上で  
ひとりで  
バイトまで時間をつぶしてました。  
環境2年 女性

江東区の体育館で  
サークルの人と  
公演の練習。  
総合2年 女性

高校で  
友達と  
学校にいました。  
環境2年 女性

外国で  
家族と  
買い物。  
総合2年 女性

# 3.11以後の課題:三度目の奇跡のために

健康マネジメント研究科委員長

高木 安雄

3・11の東日本大震災と福島原発事故という未曾有の大惨事を契機に、日本はもろろん、世界の社会のあり方は大きく変わるうとしていく。すなわち、自然の大いなる力の下で人間が虫けらのような存在であること、原子力という制御不能なものを手に入れたことの恍惚と不安を味わい、21世紀の社会と個人が取り組むべき課題が明らかとなった。特にこうした大惨事の下で、平時には見えなかった社会と個人それぞれが持つ倫理観、品格・人格、連帯の質がより鮮明になったといえる。

震災直後のテレビで大津波に襲われる事態に対して、「まるで映画のシーンを見ているようです」とコメントしたキャスターがいたらしいが、「これは、言葉遣いの問題ではなく、その人の品性・倫理観の問題だ」と厳しい批判が寄せられている。こんな想像力のないキャスターに公共の電波を預けていたのかと思うと情けない。戦後の日本が営々と築いてきたものが、大自然の前で如何に無力であったか、こんなことのために頑張ってきたわけではないという怒り、悔しさ、虚しさ、無力感に襲われる

のは同じ社会に生きる人間として当たり前前なことだ。それでも、現在なお避難所に暮らす人々、津波に流されていった人々の悔しさに比べれば、まだまだ小さなものに過ぎない。如何に想像力を働かせて、被災し、死亡した人々の思いに添えていくか、その力量が問われている。映画館のゆったりとしたソファでスクリーンを眺めるのとは異なり、同じ時代と社会を生きて、状況を共有することを忘れてはならない。

政府・東電・保安院の産官学の複合体による原発事故の記者会見を見れば、それは太平洋戦争当時の「大本営発表」とまったく同じであり、「敗戦」を「終戦」に、「敗退」を「転進」と言い換えて、超合理主義的な「希望」にすぎっていた日本社会の習性が変わっていないことに驚き、嘆かざるをえない。「論理に忠実な者は論理の復讐を受ける」という言葉があるが、研究者のはしくれとして、「想定外の事故」と薄っぺらな言葉でコメントしていた研究者を許すことはできない。論理の展開のどこに問題があり、どの部分の考察が不足していたのか、研究者であればその考察抜

きにテレビで発言などできないはずだ。結論が得られないのなら、じっと沈黙する姿を見せるしかないだろう。

そして、今回明らかになったもう一つの出来事は、政治家と霞が関のエンジニア達の無責任さ、リーダーシップのなさである。被災地からの問い合わせに対して、前例主義と上司の許可を建前に何ら方針を示せない中央官庁の実態。そして、不安を抱えた被災者に支援のための旗「方針を示せないばかりか、検討のための会議と時間を浪費して、一人悦に入っている」「おかしら」の存在は、状況を共有する世界に大いなる不思議と映ったのである。

わが国は明治維新・開国、戦後の高度経済成長という二度の奇跡を実現して、世界を驚かせて来た。しかし、今回の大震災後に「三度目の奇跡」を成し遂げられるか、人口減少・高齢化・低成長という社会環境を考えると、これまでとは比べようもないほど厳しい。「人間のピリオド、神様のカンマ」という言葉があるが、たとえ自然の力に打ちのめされて

も、朝が来れば太陽が昇り、ゆっくりと人間は立ち上がって、とぼとぼと歩き始めるしかない。そうやって人間の社会と歴史は築かれてきたのである。残されたものは先に逝ったものからきちんとバトンを受け継いで、歩き続けるしかない。我慢強い東北人の一人である野口英世は、「忍耐は苦い。されどその果実は甘い」と語っているが、還暦をすぎた私は果実を味わうことはないだろう。しかし、せめて蕾だけでも見たいと思っている。3.11を契機にそれぞれが新しい種を蒔かなくてはならない。それは、江戸から明治の開国を生きた福澤諭吉の「実学の精神」と同じであり、慶應義塾150年の歴史につながることを強調したい。



高木 安雄 (たかぎ・やすお)  
健康マネジメント研究科委員長・教授。  
専門は、医療保障、医療経済、医療政策。

3. 11  
そのとき  
あなたは

家で  
祖父母と  
ねていた。  
環境1年 女性

家で  
インターネットをした。  
総合1年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

家で  
お母さんと  
テレビを見ていた。  
環境1年 女性

保土ヶ谷図書館で  
ひとりで(周りに人はいましたが)  
借りる本を探していた。  
総合1年 男性

家で  
ひとりで  
パソコンをいじっていた。  
総合1年 男性

札幌の街中で  
親と  
パソコンを買いに行く途中でした。  
環境1年 女性

自宅で  
ひとりで  
寝てました。  
看護2年 女性

東横線の電車に乗っていました。  
ひとりで  
日吉キャンパスに用があって、移動中でした。  
環境 男性

SFCのグラウンドで  
サークルのメンバーと  
サッカーをしていました。  
総合2年 男性

SFCで  
友人と  
ゴルフをしていて本全部落下。  
環境2年 男性

家で  
家族と  
テレビを見てました。  
政・メ2年 男性

家で  
姉と  
TVを見ていた。  
総合2年 女性

汐留の地下で  
友達と  
待ち合わせていました。  
環境2年 女性

地元のカラオケで  
友人一人と  
カラオケ。  
総合1年 女性

劇場で  
サークル  
ミュージカルのリハーサル。  
総合2年 女性

山形で  
友だちと  
買い物。  
総合2年 女性

群馬の自宅で  
ひとりで  
寝てた。  
環境3年 男性

大阪のUSJで  
高校の友人と  
乗り物に並んでいた。  
環境2年 女性

家で  
ひとりで  
おひるねをしていました。  
総合3年 女性

渋谷のドトールで  
高校の友達と  
旅行の予定を立てていた。  
環境1年 男性

練馬区のサンマルクカフェレストランで  
母親と  
食事をしていました。デザートを食べる直前でした。  
環境1年 女性

会社で  
会社の人達と  
仕事。  
看護2年 女性

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

新横浜のライブスペースで  
サークル仲間と他大学の皆さんと  
交流ライブを見ていた。

総合2年 女性

自宅で  
ひとりで  
すき焼きを食べていた。

総合1年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

ファミレスで  
友達と  
食事をしていました。

環境2年 男性

家で  
家族と  
テレビを見ていた。

総合1年 男性

自宅で  
ひとりで  
音楽を聴いていた。

環境1年 男性

SFC(村井研)で  
ひとりで  
研究をしていた。

政・メ2年 男性

相模大野のラーメン二郎で  
ひとりで  
列に並んでいた。

環境3年 男性

新幹線に  
母と  
乗っていた。

看護1年 女性

仕事先で  
仕事仲間と  
仕事をしていました。

総合2年 男性

駅で  
友人と  
電車を待っていた。

環境1年 男性

家で  
ひとりで  
ゲームをしていた。

環境1年 男性



銀座の歯医者で  
ひとりで  
矯正のミーティングをしていた。  
総合1年 女性

バス停で  
ひとりで  
バスをまっていた。  
環境3年 女性

川崎市の家で  
妻と  
地震がおさまるのを玄関でまって、その後テレビで情報を得ていた。  
男性

実家で  
祖母と  
あやとりをしていた。  
総合2年 女性

家で  
母と  
ゴットハンド輝を見ていた。  
環境1年 女性

新宿の小田急ホームで  
ひとりで  
電車を待っていた。  
環境2年 男性

自宅で  
母と  
地震が止まるのを待っていた。  
看護1年 女性

予備校の寮の自室で  
ひとりで  
勉強をしていた。  
総合1年 男性

高校で  
クラスの子と  
勉強をしていた。  
看護1年 女性

池袋のゲームセンターで  
友達と  
ゲームをしていた。  
環境2年 男性

北京大学の宿舎で  
友達と  
昼寝をしていた。  
環境2年 女性

# 震災に思う…情報の連携と組織間の協調を

S F C 研究所所長

金子 郁容

今回の東北大震災は、阪神・淡路大震災からの日本社会の変化を考える機会になっている。当時、「日本人はキリスト教徒でないからボランティアはしない」と言われていた。実際は、阪神・淡路地域で130万人がボランティアを行ったとされている。後に、1995年はボランティア元年と呼ばれた。一方、インターネットは大学が大企業でしか使われていなかった。

それから16年経って、今はボランティアは当たり前のこととなり、インターネットの利用は急激に普及し、ありとあらゆるネットワークサービスが登場した。しかし、情報ネットワークなどICTの活用については、特定の企業や団体による組織的活動については一定の成果が上がったとされているもの、ネットワークの潜在的なパワーが十分に発揮されたとは言い難い。

たとえば、被災地のニーズと支援物資のミスマッチが大きかったと言われる。また、誰でも簡単にホームページを立ち上げられるので、情報提供サイトや寄付サイトなどがものすごく多く、どこを見たらよいか分らない。混乱状態だった。もともと、自律・分散・協調が基本で全体を支配する

人や機関やルールが存在しないのがインターネットであることを考えると、そのような状態も当たり前と言える。例えば当たり前なかもしれない。しかし、緊急時には「協調」の部分が意識的にもっと力強く機能するようになって欲しい。一例を挙げれば、複数の企業が提供した安否情報サービスは、利用者がどの企業の携帯電話ないしPCからでも、すべての情報が一覧として閲覧できるようにしていたきたい。

今回の震災支援にあたっては、各地で子どもから若者からお年寄りまで、被災地の「地域の助け合い」から遠方からの訪問者まで、多様なボランティアが活躍している様子が報道された。「絆」とか「支え合い」といった、「新しい公共」と呼ばれるようになってきた古くて新しい社会像が出現してきたと言われている。NPOや企業が個々により取り組みをしたケースも多く見受けられた。それらの動きの大切さは十分に理解した上で敢えて言うなら、ボランティアが「当たり前」のこととなり、インターネットがこれだけ普及した今、もっと「自律的な協調」の組織的な活動ができたのではないかと思っている。私自身がかわった

活動の反省を含めて、全体としてNPO等の非営利組織、企業、行政機関での平常時のコミュニケーションが必ずしも十分でなかったために、震災対応のための体制作りが時間がかかり、協働した活動をスムーズに、効果的に行うことについての困難さがあった。

たとえば、中国の地震、ハイチの地震などで活用された世界的に実績のあるSAHANNA(災害時の被災者サポート統合基盤オープンソース・ソフトウェア)を東北の震災対応のボランティア活動に展開するにあたって、政府、地方自治体の調整に時間がかかり、一部の地方自治体で活用されたのは震災発生の一ヶ月以上後となった。そのため、避難所への物資援助の物流情報の整理など、一番必要なときにシステムが活用しづらかったということが反省点となったという事例が「新しい公共」推進会議で報告された。

宮城県南三陸町で津波によって電子化された戸籍データが消失し、生活を支える行政手続が困難となるという事態も生じた。また、病院などが保有する紙ベース患者データの多くが流され、特に、高齢者は、自分がかかっている病名や服用している医薬品の名前を覚えていないことも多

く、いつもかかっている医師以外による救急時対応や避難所などでの対応が難しかった。重要な個人情報や日頃からネットワーク上に安全に蓄積しておき、本人や医師が閲覧したり、検索したりすることを可能にする仕組みを作っておくことが必要である。しかし、特に、健康・医療情報は行政・国公立・民間・企業など多様な機関がそれぞれの分野の情報を保有している。連携がとりにくい。

情報がつながり、技術的に連携可能になっていとしても、最も重要なのは、その情報を震災支援に利用するNPO等の非営利組織、企業、行政機関、民間などの組織の間で協力関係が成立していることである。今回の震災支援プロセスでは、自治体レベルでのヨコの相互協力についてはかなり盛んであったようであるが、国、都道府県、市町村の間のタテの連携・協力関係が、必ずしも上手くいかないことが露呈した。地域主権の基本に沿って、日頃から、よりスムーズで有効的なヨコ・タテの行政間協力関係を形成することが重要であろう。

また、本来、よりよい協働社会の構築を目指すNPO等が、それぞれのやり方や好みを重視するあまり、実

際の活動や情報共有の場面において、必ずしも十分な連携や協力ができなかったケースも見受けられる。震災支援活動においては、それぞれの独特のスタイルや考え方を少し脇に置いて、全体としての活動が最大限のパワーを発揮するようにコーディネートされるよう、NPO等の非営利組織間の協力関係がよりスムーズに形成されることが望ましい。

物心両面で大きな被害をもたらせた今回の震災をよい機会と捉えて、自律・分散のよさを生かしつつ十分に協調する新しい社会システムを作る時が来た。

SFC出身者や学生たちには、その挑戦を進める上でのイニシアティブやリーダーシップを発揮してもらいたいものだ。



金子 郁容 (かねこ・いくよう)

SFC研究所長。政策・メディア研究科教授、総合政策学部教授。  
Ph.D. (スタンフォード大学、オペレーションズ・リサーチ、1975年)  
専門は、ネットワーク論、コミュニティ論、ソーシャルイノベーション。

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

水戸の偕楽園で  
バイトの人たちと  
品物を売ってました。  
総合1年 女性

自宅で  
兄弟と  
遊んでた。  
総合3年 男性

山口の実家で  
ひとりで  
くつろいでいた。  
環境1年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

自宅で  
ひとりで  
ツイッター。  
総合1年 男性

地元の高校(神奈川)で  
ひとりで  
体育館にいた。  
総合1年 男性

自分の家の経営する電器店で  
母と  
昼寝。  
総合1年 男性

町田のカフェで  
ひとりで  
食事をとっていました。  
男性

自宅で  
ひとりで  
InceptionをBlu-rayで見た。  
環境1年 男性

家で  
ひとりで  
ゲームをしていました。  
環境1年 男性

京都の本屋で  
ひとりで  
立ち読みをしていました。  
総合1年 男性

高校の教室で  
高校の友人と  
卒業アルバムの寄せ書きを書いていた。  
環境 女性

東京丸ノ内ビルで  
面接官2人と  
就職活動の面接中だった。  
総合4年 女性

カリフォルニアで  
家族と  
寝ていた。  
環境1年 女性

自宅で  
母と  
インターネットを閲覧していた。  
総合1年 男性

家で  
ひとりで  
ひと休みをしていた。  
環境2年 女性

南町田の本屋で  
ひとりで  
買い物をしていた。  
環境4年 男性

SFCで  
サークルの先輩と  
撮影をしていた。  
総合2年 女性

家で  
ひとりで  
テレビを見ていた。  
総合1年 男性

寮の自室で  
ひとりで  
寝ていた。  
総合2年 男性

ひとりで  
シャワーを浴びていた。  
環境 男性

仙台で  
友達と  
妊婦を病院に連れて行ったり、迷子の親を探したりした。  
総合1年 男性

韓国で  
家族と  
荷物を積んでいた。  
総合1年 女性

### 3. 11 そのとき あなたは

- Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

池袋のサンシャインで  
友達と  
買い物をした。  
環境1年 女性

バスの中に  
ひとりで  
いました。  
総合1年 女性

自宅で  
母と兄がいて  
ちょうど帰宅した瞬間でした。  
環境1年 男性

マックで  
友達と  
勉強。  
環境1年 女性

家で  
ひとりで  
テレビを見ていた。  
環境1年 男性

電車の中で(田園都市線、渋谷～池尻大橋間)  
ひとりで  
本を読んでいた。  
総合1年 男性

バスの中で  
ひとりで  
寝ていました。  
環境1年 男性

香港で  
母と  
買い物をしていました。  
総合1年 女性

歯医者で  
ひとりで  
歯の治療を受けていました。  
環境1年 男性

東中野サミットで  
ひとりで  
ウィンドウショッピングをしていました。  
総合1年 男性

相模大野と町田間の電車の中で  
母親と  
しゃべっていました。  
総合1年 男性

横浜のルミネで  
母親と  
買い物をしていました。  
総合1年 女性

静岡で  
クラス全員と  
クラス旅行。  
環境1年 女性

家で  
ひとりで  
ニュースを見ながらゲームをしていた。  
総合1年 男性

家で  
ひとりで  
遊びに行く準備をしていた。  
環境1年 男性

藤沢の家で  
ひとりで  
寝転がってた。  
総合1年 男性

渋谷のご飯屋さんで  
先輩と  
ごはんが終わっておしゃべりしていました。  
総合1年 女性

おうちで  
ママと  
寝ていました。  
総合1年 女性

新百合ヶ丘の友人宅で  
友達と二人で  
ゲームをしていました。  
環境1年 男性

SFC中高で  
友と  
図書館でだべってました。  
環境1年 男性

新宿のホテルで  
仕事仲間と  
社長の講演を聞いていた。  
総合2年 男性

東急東横線で  
ひとりで  
電車に乗ってました。  
経済1年 男性

3. 1 1  
そのとき  
あなたは

自宅で  
ひとりで  
寝転がってテレビを見ていました。  
環境1年 男性

Q1.どこで  
Q2.だれと  
Q3.なにをしていた？

家で  
兄と  
ゲームをしていました。  
環境4年 女性

地下鉄車内で  
ひとりで  
就活の会場へ移動中。  
総合4年 女性

自宅で  
ひとりで  
プラモデルを作っていました。  
環境1年 男性

自宅で  
ひとりで  
ミヤネ屋を見てた。  
総合2年 男性

家で  
ひとりで  
寝ていた。  
環境2年 女性

家で  
母と  
テレビを見ていた。  
看護2年 女性

九州の母方の祖父母宅で  
母方の祖父母、叔父叔母夫婦と  
お茶を飲んでいた。  
環境1年 女性

杉並区の自宅で  
ひとりで  
パソコンで音楽を聴いていた。  
総合1年 男性

自宅の自室で  
ひとりで  
パソコンでインターネットを閲覧していた。  
環境3年 男性

大阪の実家で  
ひとりで  
ソファの上で寝ていました。  
総合1年 女性



家で  
母親と  
テレビを見ていたと思う。  
総合1年 男性

福岡で  
バイト仲間と  
バイトをしていた。  
環境3年 男性

自宅で  
寝てた。  
環境2年 男性

家で  
ひとりで  
テレビを見てました。  
看護2年 女性

富山の橋の上で  
母と  
車に乗っていた。  
総合1年 男性

バイト先(ファミレス)で  
バイトの人と  
働いてました。  
看護2年 女性

田端駅のホームで  
友だちとその彼女と  
乗り換え待ちをしていました。  
環境1年 男性

銀行で  
ひとりで  
通帳を作っていた。  
環境1年 男性

家で  
ひとりで  
テレビを見ていた。  
環境2年 男性

新横浜、横浜アリーナ地下のライブハウスで  
サークルの仲間、他大の同種サークルの人々120名程度と  
アカペラのライブを聞いていた。  
環境2年 男性

那覇市市役所で  
ひとりで  
住基カードを発行していました。  
総合1年 女性

**発行人**

花田 光世 (湘南藤沢学会会長代行)

**編集長**

吉澤 悠介 (総合政策学部3年)

**副編集長**

粒良 夏未 (看護医療学部2年)

中谷 紗恵 (環境情報学部2年)

**編集スタッフ**

山崎 春奈 (総合政策学部4年)

太田 知也 (環境情報学部2年)

柏野 尊徳 (総合政策学部2年)

加藤 千晶 (環境情報学部2年)

北本 侑理 (環境情報学部2年)

青木 優莉 (環境情報学部1年)

池田 真梨子 (総合政策学部1年)

岡崎 桃子 (環境情報学部1年)

川井 祐樹 (総合政策学部1年)

後藤 寛道 (環境情報学部1年)

高木 慎介 (総合政策学部1年)

藤吉 賢 (環境情報学部1年)

水野 雄基 (環境情報学部1年)

柳生 健二郎 (環境情報学部1年)

**湘南藤沢学会**

KEIO SFC REVIEW担当幹事

加藤 文俊 (環境情報学部教授)

**事務局**

田坂 真美

**発行日**

2011年7月31日

**発行所**

慶應義塾大学 湘南藤沢学会

〒252-0816 神奈川県 藤沢市遠藤5322

0466-49-3437

<http://gakukai.sfc.keio.ac.jp/>[gakkai@sfc.keio.ac.jp](mailto:gakkai@sfc.keio.ac.jp)**制作・印刷**

株式会社ワキプリントピア

〒252-0815 神奈川県 藤沢市石川6-26-19

0466-87-5811

<http://www.printpia.co.jp/>

無断転載・複製を禁じます。

ご相談は慶應義塾大学 湘南藤沢学会までお寄せください。

KEIO SFC REVIEWは学生編集スタッフを募集しています。  
興味のある方は、[gakkai@sfc.keio.ac.jp](mailto:gakkai@sfc.keio.ac.jp)までご連絡ください。最新号およびバックナンバーをご希望の方は湘南藤沢学会まで  
ご連絡ください。**From Editor**

3.11から4ヶ月が過ぎました。

依然として続く余震や、原発、電力の問題。まだまだ復興の途中です。

今号を読んで、皆様が少しでも、あの日あの時のことを思い返すことが  
できたなら、私たちの本望です。私たちREVIEWは、今年も新たにたくさんの1年生が加わり、より賑や  
かな編集部になりそうです。どうぞ温かく、時に厳しい眼差しで、見守っ  
てください。

KEIO SFC REVIEW 48号 編集長 吉澤 悠介



# KEIO SFC REVIEW